

見えにくい障害「発達障害」を 知っていますか？

～どこにでもいるちょっと変わった子～

4月2日～8日は「発達障害啓発週間」です

国連により4月2日は「世界自閉症啓発デー」と定められました。そこで、我が国では4月2日を始めとする一週間を「発達障害啓発週間」と決めました。今号では、自閉症をはじめとする発達障害についてお知らせします。

「あの子ってちょっと変」「乱暴者で自分勝手に困るわ」「きっと親の育て方が悪いのよ。しつけがなっていないわ」そんな風に決めつけてしまう前に、ちょっと考えてみてください。その子は一見普通の子と何も変わらないように見えるかもしれませんが、見えにくい「障害」を抱えているのかもしれないのです。



福祉課 ☎66♦1106

親の育て方ではありません

皆さんは「発達障害」って知っていますか？障害という言葉を知ると、なんとなくちよつと避けたような、おもしろいイメージがあるかもしれませんが、しかし最近、発達障害は「発達の凸凹」という言われ方をされたりします。誰にでもある得意・不得意の差が大きい、いわゆる凸凹があるために、苦労している人たちがいます。

障害というできないイメージが先行してしまうかもしれませんが、発達障害の場合、できすぎてしまう部分もあり、発達にアンバランスがある状態です。これらは親の育て方といった環境的な原因で起こるものではなく、生まれつき脳のタイプが違うことで起こります。障害というと脳の病気？のように思われてしまうかもしれませんが、脳の中の得意・不得意のバランスが多数派とは違っているという状態なのです。そのアンバランスが何らかの困難をもたらすときに障害と呼びます。

何らかの発達障害がある人は人口の2～5%かそれ以上いると言われており、決して少ない人数で

はありません。例えば1クラス40人学級だとすると2人はいるということになります。

実は困っているんです

障害に気づかず、苦労しながらも普通に生活をしている人もたくさんいると思われがちです。障害名とその障害がもたらす行動の特徴を知ることがとても大切なことです。しかし、「あの子は障害があるから仕方がない」と切り捨ててしまふのは、理解でも支援でもなく、障害名がもたらす偏見以外の何者でもありません。今後は、発達障害といった見えにくい障害に対する理解が社会に広がっていくことが必要となります。

まず手はじめに「悪気はないんだ。どんな工夫したら分かってくれるのかな？」という視点で考えること、そして想像力を働かせて目の前の子どもをその視点で見るといことが大切です。例えば、耳で聞いただけでは分からなくても、紙に書いたり、図や表で視覚的に示すと理解ができる子がいます。また、先の見通しがつかないために不安になってしまう子には次に何がするのか、いつまで続く